## 水稲における高密度播種と育苗箱全量施肥栽培を組み合わせた省力技術

水稲育苗において、深さ 40mm の育苗箱を用い、播種量 250g/箱の高密度播種と施肥量 2,250g/箱の育苗箱全量施肥 (箱底施肥) を組み合わせることで、移植作業に支障のない苗丈の苗の生産が可能である。10a 当たりの使用育苗箱数を8箱に減じることができ、本田施肥も不要となる。慣行栽培と比較して窒素は1割減肥され、移植後の生育や収量・品質は同等である。

農業研究センター生産環境研究所土壌環境研究室(担当者:月田裕人)

## 研究のねらい

地域農業の担い手不足が深刻化しており、稲作経営は規模拡大による集約化、さらに費用および労働時間の削減による経営改善が喫緊の課題となっている。水稲の高密度播種ならびに専用肥料による育苗箱全量施肥栽培は、それぞれ別個の技術として実用化されている。両技術の組み合わせが可能となれば大幅な省力化ならびにコスト低減に繋がることが見込まれる。そこで、この2つの技術を組み合わせた育苗技術を確立する。

## 研究の成果

水稲育苗において、深さ 40mm の育苗箱を用い、播種量 250g/箱(乾籾換算)の高密度播種と施肥量 2,250g/箱の育苗箱全量施肥(箱底施肥。以下、高密育苗箱施肥)を組合わせることで、慣行栽培(播種量 100g/箱、育苗箱 30mm 深、本田における全量基肥施肥。以下、慣行)と比較して、以下の効果が得られる。

- 1. 10a 当たりの使用育苗箱数を 8 箱に減じることができ、本田施肥は不要となり、窒素施肥量を 1 割減じることができる(表 1)。
- 2. 苗質として、充実度は低い(図 1 )ものの、苗丈は  $13\sim19$ cm で機械移植に適した範囲  $(10\sim25$ cm)である(図 2 )。
- 3. 育苗箱が深いことにより、1 箱当たりの重量が播種時には約 1 kg、移植時には約 2 kg 重くなる(図 3)。
- 4. 移植後の本田における生育、収量ならびに外観品質は、同等以上である(表2,3)。

## 成果の活用面・留意点

- 1. 通常より深い 40mm 深の育苗箱に播種機が適応可能であることを確認する必要がある。
- 2. 苗の根への水と酸素の供給を両立するため、育苗場所は畑育苗を推奨する。慣行育苗より も床土が乾燥しやすいため、苗が萎れない程度に1日の潅水回数を増やす必要がある。
- 3. 苗の充実度が低く生育するため、出芽後の被覆シートを苗丈 1cm 程度で取り除くなど、充実した苗を育てる管理を行う。その他、水稲育苗箱全量施肥栽培の基本育苗管理を徹底し、初めての取組みにおいては小規模の試作とすることが望ましい。
- 4. 育苗箱重量の増加により、苗のルートマット強度は移植の際の苗自身の重量に耐え得る 必要強度を下回るが、苗取板を用いれば移植作業に支障はない。
- 5. 面積当たりの使用箱数が本田施肥量と連動するため、高密度播種対応田植機を用いるとと もに、横送り回数とかき取り量(高さ)による面積当たり使用箱数の正確な設定が必要である。

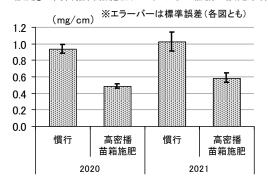
【具体的データ】 No. 975 (令和4年(2022年)6月) 分類コード 03-01 熊本県農林水産部

表1 使用苗箱数、施肥量 ほか試験条件(場内試験)

	使用箱数(箱/10a)				施肥量(Nkg/10a)				播種日		移植日		苗齢		欠株率	
処理	2020		2021		2020		2021		(月/日)		(月/日)				(%)	
	設定	実績	設定	実績	設定	実績	設定	実績	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021
慣行	20.0	18.0	20.0	20.7	_	8.0	_	8.0	5/21	5/24	6/18	6/21	3.5	3.4	1.1	0.0
高密播苗箱施肥	8.0	7.1	8.0	7.9	7.2	6.4	7.2	7.1	6/1	6/4	6/18	6/21	2.5	2.6	1.1	1.1

※試験場所は農研センター(合志市)。品種は「ヒノヒカリ」。栽植密度は約 16 株/㎡。

「設定」は高密播苗箱施肥区における田植機の設定条件、「実績」は移植後の実測値。



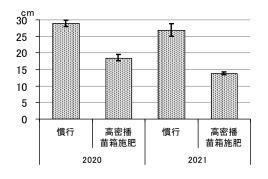


図1 苗の充実度(茎葉乾物重/苗丈)

図2 苗丈

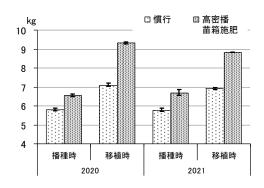


図3 1箱当たり苗箱重量

表 2 生育、収量、収量構成要素および玄米品質(場内試験)

		工门、火里、	八里川	1/4/4 5	//			H 54 ( %)	1 24 40	, ( )		
_			最高分	げつ期	成熟期			_精玄米重	千粒重	籾数	登熟	検査
	年	処理	草丈	茎数	稈長	穂長	穂数				歩合	等級
			cm	/m³	cm	cm	/m²	kg/10a	g	$\times 100/\text{m}^2$	%	1-10
_	2020	慣行	81	345	77.4	19.4	325	439	20.8	292	75	5.8
2020	高密播苗箱施肥	69	297	75.7	19.1	271	443	21.6	226	78	5.5	
	2021	慣行	62	454	77.4	17.8	355	482	22.6	231	91	4.0
2021	高密播苗箱施肥	63	420	82.5	18.6	368	552	22.7	247	91	3.7	
_	分散	処理	*	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	*	n.s.	n.s.	n.s.
分析	年次	*	*	*	*	*	*	*	n.s.	*	*	
	交互作用	*	n.s.	*	*	n.s.	n.s.	*	n.s.	n.s.	n.s.	

※二元配置 3 反復の分散分析において、\*は 5%水準で有意差があること、n.s.は差がないことを示す。

精玄米重および千粒重は 1.80mm で篩別し水分 15%重量に換算。検査等級は 1 等上:1~3 等下:9 に指数化(以下表同じ)。

表3 生育、収量、収量構成要素および玄米品質(現地試験)

	窒素	最高分げつ期			成熟期		精玄	玄米	籾数	登熟	検査
処理	施肥量	草丈	茎数	稈長	穂長	穂数	米重	千粒重		歩合	等級
	kg/10a	cm	/m³	cm	cm	/m²	kg/10a	g	×100/m <sup>†</sup>	%	1-10
慣行	9.0	65	355	74	16.9	284	390	22.1	215	74	8.0
高密播苗箱施肥	8.1	71	327	76	19.1	268	443	22.3	248	75	8.0

※試験場所は多良木町。品種「ヒノヒカリ」。播種日 2021 年 5 月 25 日、移植日 6 月 10 日。

播種量 300g/箱(湿籾)、使用苗箱数 10 箱/10a。高密播苗箱施肥の箱当たり施肥量は 2025g。作柄は穂いもち多発により平年よりも減収。